

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	人	算数	人	理科	人
第5学年	国語	人	算数	人	理科	人

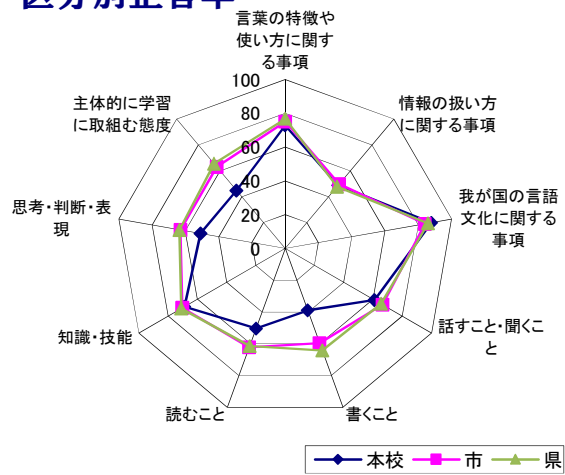
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.9	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	48.8	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	87.8	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	61.0	66.5	65.5
	書くこと	39.0	59.6	64.2
	読むこと	50.4	62.2	61.5
観点	知識・技能	68.8	70.2	71.1
	思考・判断・表現	50.9	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	44.9	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

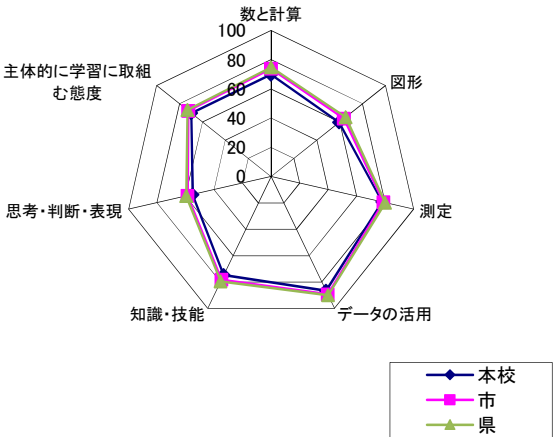
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○ ●	
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化にに関する事項		
話すこと・聞くこと		
書くこと		
読むこと		

宇都宮市立西原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.8	73.8	74.8
	図形	59.5	63.7	65.3
	測定	78.0	78.9	80.1
	データの活用	86.6	89.3	90.0
観点	知識・技能	74.8	78.3	79.5
	思考・判断・表現	55.1	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	69.8	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

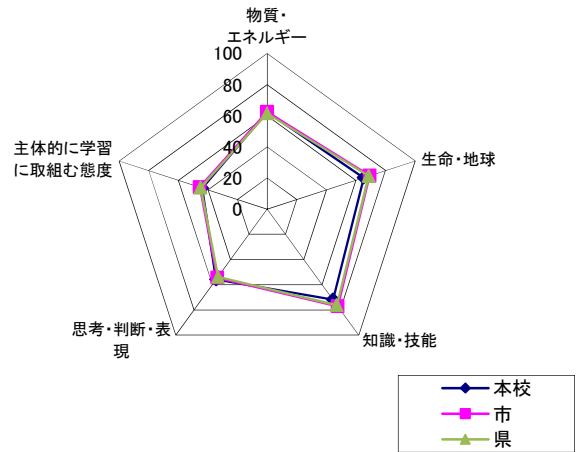
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県や市の平均より低かった。 ○わり算で問題を解くための立式の仕方は理解している。 ●2桁のかけ算について、さらに理解を深める必要がある。 ●□を使った式について、さらに理解を深める必要がある。	・基礎的な問題はできている児童が多いため、これからも家庭学習などで問題を解くことでさらなる定着をはかる。 ・2桁などの大きい数のかけ算は、基礎的部分を応用できるよう指導していく。 ・□を使った式など想像力が必要なものは、図や表に表して視覚化するようにして、何を求めればいいのか分かるよう指導していく。
図形	平均正答率は県や市の平均より低かった。 ○円の半径やコンパスの使い方について理解している。 ●ボールの大きさなどから半径などの求め方について、さらに理解を深める必要がある。 ●円の直径について、さらに理解を深める必要がある。	・コンパスや定規を使って作図することを繰り返し学習し、定着を引き続き行っていく。 ・円の大きさなどの情報から半径の長さが求められるように、具体的に見えるようにデジタル教科書などを用いて指導し、実践問題などを増やす授業作りを行う。
測定	平均正答率は県や市の平均よりやや低かった。 ○時刻と時間について、時刻の求め方や分と秒の関係性についてよく理解している。 ●地図から道のりを読み取り、その和を求めることについて理解を深める必要がある。	・様々な物を多く測定することで、量や重さに対する感覚が養えるよう指導していく。 ・日常生活において、どの様な場面で使えるのかをしっかりと考えることで普段意識して行動することで日常生活とリンクし定着しやすくなるように指導する。
データの活用	平均正答率は県や市の平均より低かった。 ○はかりのメモリの読み方を理解している。 ●棒グラフを読み取り、二番目に多かった組を見つけることについて理解を深める必要がある。	・はかりメモリの読み方などは理解できているためさらなる定着を図るため実践問題などを増やす指導をする。 ・応用問題での文章を理解する能力を養うため、聞かれているものにしるしをつけるなどの指導をして、何を求めればいいのか意識しても問題に取り組ませる。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.4	62.5	61.5
	生命・地球	65.2	69.2	68.6
観点	知識・技能	71.9	77.2	76.3
	思考・判断・表現	55.8	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	43.9	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同程度であった。 ○「風やゴムのはたらき」や「物の重さ」の問題では、基礎的な内容を問う設問である。観点別でみても自然事象についての知識・理解についても、科学的な思考・表現についての問題でも平均正答率は高かった。また、「光のせいしつ」や「じしゃくのせいしつ」でも、基礎的な内容については高い正答率を示している。これは、実験方法をよく考え、実験結果から得られた事象から考察をしっかりと行った成果であると考えられる。また、実験に興味を持ち、意欲的に取り組んだ結果であると考ええる。 ○県・市ともに低い正答率を示した主体的に学習に取り組む態度は、わずかに高かった。 ●光や音、電気など、実感を伴わないものや学習内容の活用となると正答率が下がる。	・今後も、実験器具の正しい使い方や実験方法を理解するとともに、実験の目的をよく理解したうえで取り組むようにする。正確な計測結果が得られるように、授業の工夫を行っていくようにする。 ・一つ一つの実験・観察を丁寧に言い、分かりやすいノート指導とともに、考察を文章でまとめる時間をできるだけ設定し、自分の考えの根拠となった理由を適切に表現できるように指導していくようにする。また、分かりやすく、意欲をもって取り組めるような実験・観察の方法を示したり、教材を開発したりしていきたい。
生命・地球	平均正答率は、県や市の平均よりわずかに低かった。 ○生活科での学習が生かされたのか、植物の体のつくりや育ち方については高い正答率を示した。全体的に観察・記録の方法についての力が身に付いている。 ●昆虫育ち方や体のつくりについての設問や植物の子葉では、基礎的な設問でも正答率は低かった。太陽と地面のかげについて答える記述式の設問のように文章で説明する問題の平均正答率が低かった。	・引き続き、観察や実験などを通して、継続的に知識・技能及び表現力の定着を図っていききたいが、観察するポイントや目的をしっかりと持たせたうえで取り組ませるようにしたい。 ・授業において、できるだけ自分の考えをもたせられるようにしたい。それを表現できる発言の場を確保し、ノートの作り方と併せて考察したことや、判断した理由を、できるだけ自分の言葉で表現することができるよう指導していくようにしたい。 ・植物や昆虫など興味をもって取り組めるようにICTなども活用していきたい。

宇都宮市立西原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は100%で、市の平均と比べて7ポイント以上高い。低学年からの家庭学習の定着と励ましや保護者の協力の成果であると考えられる。一方、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」と回答した児童は51.3%で、市の平均と比べて15ポイント以上低い。また、「家で、授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」と回答した児童も、県の平均と比べて10ポイント以上低い。今後は、学校と家庭が連携して児童の努力や成長を見守り、良い面を伸ばす指導を推進していくとともに、学習の質を高められる具体的な方法を児童が学ぶ場を設定し、児童の学習の充実を図っていききたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と回答した児童が7割近くおり、市や県の平均と比べて10ポイント前後高い。「1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問に対しての回答では、県・市の平均に比べて読書の時間が短い児童が多いことから、情報を得る手段としてタブレットなどのICT機器が多く使われていると考えられる。今後は、学習場面に合わせてタブレット等のICT機器だけではなく図書等も効果的に活用させていきたい。

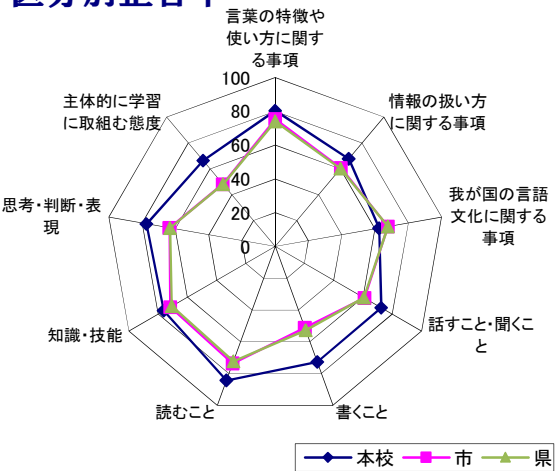
○「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」という質問に対して、肯定的な回答した児童の割合が9割を超えており、市・県の平均と比べて8ポイント以上高い。児童が自分たちで学級のきまりを考え、よりよい学校生活を作っていこうとすることができる機会を定期的に設けている校歌であると考えられる。一方、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した児童の割合が68.3%であり、市の平均と比べて9ポイント低い。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童の割合が68.2%であり、市・県の平均と比べて11ポイント低い。学級活動以外にも、自分たちで話し合い課題解決をしていくような学習活動を通して、より多くの児童が発言機会を得て、学びを深められる場を多く設定していく。それを通して、多くの児童が安心感や納得感をもって学校生活を送ることができるようにしていきたい。

●「自分には、クラスの人の役に立っていると思う」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が51.2%で市の平均と比べると、12ポイント以上低くなっている。一方、「学校での役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が92.7%で9割を超えており、市の平均よりも高い。友達とお互いに良い点を伝え合ったり、友達がしてくれたことに感謝したりする活動を通して、児童一人一人の仕事が友達のためになっていることを自覚させ、児童本人の自己肯定感の向上を図っていききたい。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.4	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	67.7	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	62.5	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	72.5	61.0	60.7
	書くこと	72.7	51.2	52.8
	読むこと	84.4	73.7	72.4
観点	知識・技能	76.1	71.7	70.6
	思考・判断・表現	77.3	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	66.3	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

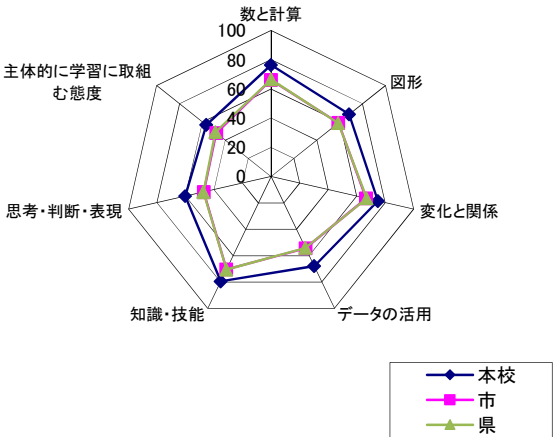
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○4年生で学習した漢字の読み書きができています。 ●連用修飾語の係り受けについての理解が十分でない。	・言葉の特徴や使い方にに関する指導を丁寧に行う。 ・朝の学習の時間や宿題で、修飾語と被修飾語についての問題に何度も取り組ませる。 ・修飾語には、連体修飾語(名詞を修飾する語)と連用修飾語(名詞以外の動詞や形容詞、形容動詞を修飾する語)の2種類があることについて指導し、係り受けを考える際の参考にできるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○漢字辞典の使い方について理解している。 ●情報と情報を関連付けながら、理由や事例を挙げて話すことに課題がある。	・1つの課題に対して2つ以上の資料を読む必要があるような場面を意図的に設定していく。(学級活動においてアンケートの結果から今後の方針を話し合うなど) ・係活動や委員会活動で、ICTを活用したアンケートを積極的に活用するよう促し、情報の分析を行う経験を積ませる。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より低かった。 ●ことわざの意味や用法についての理解が十分でない。	・国語の時間の導入5分間(あるいは終末5分)や朝の学習の時間を中心に、ことわざの意味や用法を学ぶ機会を設定する。 ・ことわざかるた(江戸いろはかるた等)で楽しみながら学べる機会をつくる。 ・ことわざの意味や用法調べの宿題を出し、発表する時間を作ることで、知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○話の中心を捉えたり、話し手の工夫を感じ取ったりすることができている。 ●話し合いの場面で、それぞれ共通点や相違点を踏まえながら、意見をまとめることに課題がある。	・学習の中に話し合いの場面を多く設定するようにして、実践的に力を高められるようにする。 ・話し合いでは、共通点や相違点を考えながら聞くよう継続的に指導する。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○字数や段落構成についての条件に沿って、自分の考えを記述することができている。 ●内容の中心を明確にして、自分の考えを書くことについては正答率が低い。	・普段から、要点を考えつつ真剣に人の話を聞くよう指導する。 ・国語や総合的な学習の時間を中心に、インタビューして話をまとめる活動を今より多く設定する。 ・自分の考えを表出しやすい雰囲気や学級や学年につくり、自分の意見を恐れずに表現できる児童を育成する。そうして何度も書く中で、内容の中心を明確にして書くことができるよう指導する。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○説明文において、段落相互の関係に着目しながら正しく内容を読み取ったり、文章を要約したりすることができている。 ●物語文において、叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることに課題がある。	・気持ちを表す言葉についての知識量が十分でない様子が見られる。「おどける」「胸がつまる」などの直接的でない感情表現について、朝の学習の時間などで意図的に取り上げ、知識量を増やす。 ・物語文の音読の際、特に会話文について感情を込めて読むように指導することで、人物の心情を必然的に考えさせるようにする。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.3	66.1	66.4
	図形	68.3	58.9	58.8
	変化と関係	75.0	66.6	67.0
	データの活用	68.0	54.4	54.2
観点	知識・技能	79.5	70.4	70.6
	思考・判断・表現	60.2	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	56.7	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

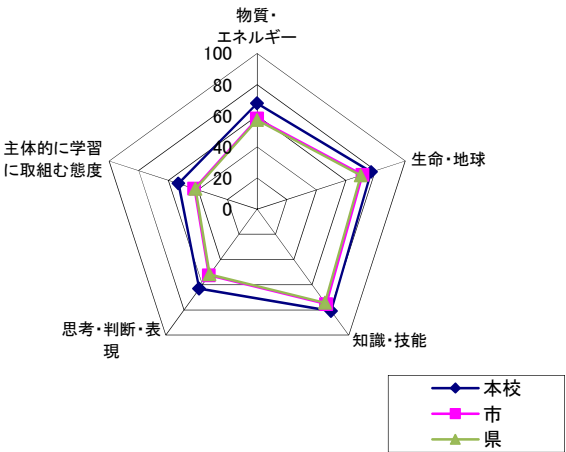
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市の平均よりも高かった。 ○小数のたし算については、正答率が100%であり、よく理解している。 ●位取りの表を使って、命数法で書かれた数を記数法で表すことについては、理解を深める必要がある。 ●整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較については、正答率が50%と低く、理解を深める必要がある。	・数の構成と位取りの仕組みを図や数直線の活用など資料を工夫して指導していく。 ・分数を小数に直す問題や分母の異なる分数を通分する問題に繰り返し取り組ませる。
図形	平均正答率は、県や市の平均よりも高かった。 ○分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み方についてはよく理解している。 ●面積の単位の関係を説明することについては課題がある。 ●平行四辺形の作図の仕方について理解を深める必要がある。	・1辺の長さや面積を表に表すなど、面積の単位の関係の理解を深めさせる活動を行っていく。 ・平行四辺形の性質を理解させた上で、どの用具をどのように使うと作図できるのか、児童同士で話し合いながら作図の手順を考えていくような授業を行っていく。
変化と関係	平均正答率は、県や市の平均よりも高かった。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることについてはよく理解できている。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す力が付いている。 ●基準量を求める除法の文章問題を表す図を選ぶことについては課題がある。	・伴って変わる数量の関係を学ぶ際は、表から変わり方のきまりを見つけさせる時間を十分に与える。また、一方の値が変化すると、もう一方の値がどのように変化するか2つの数量関係を調べ説明する活動を今後も行っていく。 ・ある2つの場合の数量関係と別の2つの数量関係とを比べる場合には、その関係を図に表してから立式するように指導する。
データの活用	平均正答率は、県や市の平均よりも高かった。 ○二次元表の読み方についてよく理解している。 ○折れ線グラフから変わり方を読み取る力が付いている。 ●図書室を、先週利用した人数と、今週利用した人数の違いを求めるのに必要な二次元表の欄を示し、その求め方を説明するような問題は、正答率が低く、理解を深める必要がある。	・データを2つの観点で分類整理し、表にまとめたり、そこからわかることを考察する活動を丁寧に行っていく。 ・目的に応じてデータを集めることに重点を置いて指導する。また、データを分析して得られた結論を言葉で説明する活動を大切にする。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.9	58.1	57.2
	生命・地球	77.0	71.1	70.0
観点	知識・技能	80.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	63.2	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	53.1	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県や市の平均より高かった。 ○「物質とエネルギー」の区分では、14問中11問において県の平均正答率より5ポイント以上上回った。 ○「物の体積と温度」では、温度による空気の体積の変わり方を理解しているか問う問題において、87.5%と高かった。 ●「電気のはたらき」では、乾電池を2個使って、乾電池が1個のときよりも速く走る車にするための回路を作図する問題の正答率が40.6%と低かった。 ●「水のすがた」では、水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフをもとに、水の量のちがいと沸騰する温度を関連付けて記述する問題の正答率が、40.6%と低かった。また、湯気は液体であることを理解しているかの問題の正答率は、21.9%と低かった。	・「電気のはたらき」では、電池の数や回路(直列つなぎ・並列つなぎ)によって電流の流れる量が変わる等、基本を身に付けた上で、実験の後にプリントなどで演習問題に取り組みさせていきたい。また、自分で考えて実験の結果をノートにまとめる時間を十分に確保したい。 ・水を温めたり冷やしたりすることでその姿が「水」「氷」「水じょう気」と変化することを実験を通して確認するとともに、「液体」「固体」「気体」という言葉を具体的な姿と関連付けて覚えさせたい。また、水の量のちがいと沸騰する温度を関連付けて考えられるようにさせる。
生命・地球	平均正答率は、県や市の平均より高かった。 ○この領域の問題で正答率が8割を超えたのは、17問中11問であった。 ○「動物のからだのつくりと運動」では、骨と骨のつなぎ目を「関節」と10割の児童が正答できた。 ●「1年間の植物の成長」では、気温の変化のグラフとヘチマのくきののび方を関連付ける問題の正答率が59.4%と低かった。 ●「天気のようにすと気温」では、記録温度計の記録から、天気の変化を推測する問題の正答率が50パーセントと低かった。 ●「月と星」の半月の一日の動きを理解し、どの時刻の半月か判断する問題は、正答率が最も低く、本校の平均正答率は25%である。	・実験の予想が正しいと仮定した場合にどんな結果が得られるのかを推測したり、何を問われているのか解釈したりすることに課題が見られるので、日頃から実験の予想・結果、考察を丁寧に行う。 ・グラフの読み取りが必要となる問題の正答率が低いことから、実験の結果をグラフに表したり、グラフから考察する経験を増やす。 ・半月の1日の動きや時刻による変化をもう1度図を使って確認し、理解させる。

宇都宮市立西原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答の割合は100%であった。自宅での学習習慣が十分に定着していると思われる。

○「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)」や「1か月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)」の値は、県や市の値よりも大きかった。読書が生活の中でしっかり位置づけられている様子がうかがえる。これからは読書への啓発を行い、より読書へ親しんでいけるようにしていきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答の割合が、県や市の割合よりも低かった。未知に出会うこと、探求することの楽しさを伝えられるよう授業の課題設定や課題解決の方法を工夫して、より興味をもてる学習になるようにしていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答の割合が、県や市の割合よりも高かった。学習携形態としての話し合いが定着し、児童がよく活動できている様子がうかがえる。これからの学習にも適宜取り入れ、活用していきたい。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の肯定的回答の割合が、県や市の割合よりも高かった。特に、前2つの設問の肯定的回答の割合は100%であった。授業の流れとしてのめあてから振り返り、思考の整理としてのノートの活用が定着していると思われる。今後も活用し、学習の流れを確立していきたい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答の割合が、県や市の割合よりもやや低かった。疑問を発見し解決することの意義を伝えらるとともに、授業の流れの中に児童からの疑問を受け入れる余白を用意するなど、授業が疑問解決の場となるよう展開を工夫していきたい。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのみまりなどを決めていと思う」「自分はクラスの人役に立っていると思う」の肯定的回答の割合が、県や市の割合よりも高かった。クラスの一員であり、クラスの活動一端を担っていることを自覚している児童が多いと思われる。これからは児童一人ひとりが活動の場をもてるクラスづくりをしていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか」の値は、県や市の割合よりも高かった。日常的にゲームに時間をかけている児童が多いことがうかがえる。時間の有効な使い方や健康面での影響などを生活振り返る場をもち、指導していきたい。

○「しょう来のゆめや目標をもっている」「家の人としよう来のことについて話すことがある」の肯定的回答の割合が、県や市の割合よりも高かった。普段から保護者と一緒に将来について話す機会があることがうかがえる。将来への展望をキャリア教育等の場で生かしていきたい。

○「分からない国名や地名があつたら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の肯定的回答の割合が、県や市の割合よりも高かった。学習内容に合った情報源の利用が身に付いており活用できている様子がうかがえる。他の教科への応用や多様な活用法を支援することで、より有効に利用できるよう指導していきたい。

宇都宮市立西原小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	・今年度より高学年で教科担任制を取り入れ、専門性を生かした指導を続けている。またAIDリルの活用や、朝の学習、家庭学習の実施方法等についての共通理解も図り、指導を積み重ねてきた。	・5年の国語・算数・理科において、「主体的に学習に取り組む態度」の肯定回答率がすべ県や市の結果を大きく上回った。それが学力に結びついてきている。学習内容も難しくなり、前学年までの学習内容が定着していない可能性もあるので、AIDリルなどを活用し、前学年までの復習を行っていくとともに、日々の授業やモジュールなど朝の学習、家庭学習の指導の在り方を見直し、学校全体できめ細やかな指導を行っていく。
・児童が主体的に取り組めるような学習の展開や場の設定、思考力や表現力を育てる指導の工夫・改善	・主に体育の学習を通して、振り返り活動の充実、児童が主体的に取り組めるような授業の在り方・思考が見えるようなノート指導の工夫などを行ってきた。それを他教科にも応用していくようにしている。また学び合いの場の設定については、個人端末の活用や、新型コロナウイルスの感染状況に合わせた予防対策を取るなどして、工夫して行った。	・質問紙「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている」の質問では、肯定回答が県や市の回答を上回っており、ノートの使い方が見についてきていることが分かる。今後も発達段階に応じた活用や、学び合いの場の設定を行い、学びを深められるようにしていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4年生の国語について、「書くこと」について市や県の平均正答率と比べ著しく低かった。「読むこと」「主体的に学習に取り組む態度」においても、10ポイント以上低かった。	児童のやる気を引き出す指導の工夫。実態に応じたきめ細かな指導の徹底と基礎・基本の確実な定着を目指した支援・指導	普段の授業において、児童の興味関心を引き出せるような工夫をしたり、進んで取り組めるような活動を工夫したりする。同時に、調査問題を解き直したり、類似した問題を数多く解くことにより、苦手分野の克服を目指す。日頃の授業の指導方法や朝の学習の計画を見直す。 また、個人差も見られることから、朝の学習の時間を活用しながら、少人数・習熟度別学習にも重点を置いていく。